



われら 共同体志願者

コミュニティー運動百人委員会

われわれは何をばじめようというのか……

文化革命だともいう。社会革命だともいう。

何よりも意識革命だともいう。何かしら想像

もつかない、どこかいいことをしようとしてい

るのかもしれない。しかし、それに較べて、

われわれがとりあえずしなければならぬこ

とは、あまりにも具体的で、あまりにも些細

で、あまりにも重たい。

われわれは、その重みに耐えながら、自ら

の内なる共同体の真姿を明らかにしつつ、共

同体志願者としての才一歩を踏み出さなければ

ならぬ。

序にかえて

このパンフは、弥栄之郷を中心とする共同体運動とあなたとを結びつける“かけはし”になればと、百人委員会の有志が作ったものです。

このパンフで、われわれの共同体運動をすべて紹介してくれるとは思いませんし、またわれわれの運動も まだその端緒についたばかりで、今後どうなっていくのか、あなたにとってどのような意味をもっていくのかは、不可視のものです。それはあなた自身のこれからの共同体運動とのかかわりのなかで 少しずつその姿を現わしてくることでしょう。

また、直接に共同体運動に参加されることがなくても、共同体の精神と理想を常に心のどこかに抱いておかれるとき、共同体は何らかの影響をあなたに与え続けることでしょう。そのことに このパンフが少しでも 貢献できることを 願っています。

岡山県の備北で 産ぶ声をあげた われわれの共同体運動は、昭和47年から 島根県の弥栄村に最初の根拠地を構築し、いよいよ終りのないコミュニオン社会建設への「長征」に出発しました。

この弥栄之郷を中心とする共同体運動を、持続・展開する運動主体として、「コミュニオン運動百人委員会」があります。

現在、弥栄では「オニ共同体」が出発し、広島では「共同体直販センター」と「広島こむうな塾」が、大阪では「大阪こむうな塾」と「弥栄ワークキャンプグループ」が、百人委員会運動の一翼として連合し、運動のすそ野を広げています。

百人委とは何か

その考えと活動

「コムニオン運動百人委員会」は、弥栄之郷を中心とする共同体運動の意味を認める個人、弥栄之郷共同体と 部分・全体的に関わりをもつ個人、自らの共同体運動に弥栄之郷共同体運動との連合の視点をもって活動する個人が、それぞれの関わり方で参加する、組織でない組織です。百人委員会は組織としてのいっさいの強制はなく、自発的な個人の 部分的・個性的な参加・活動によって 創っていくものです。

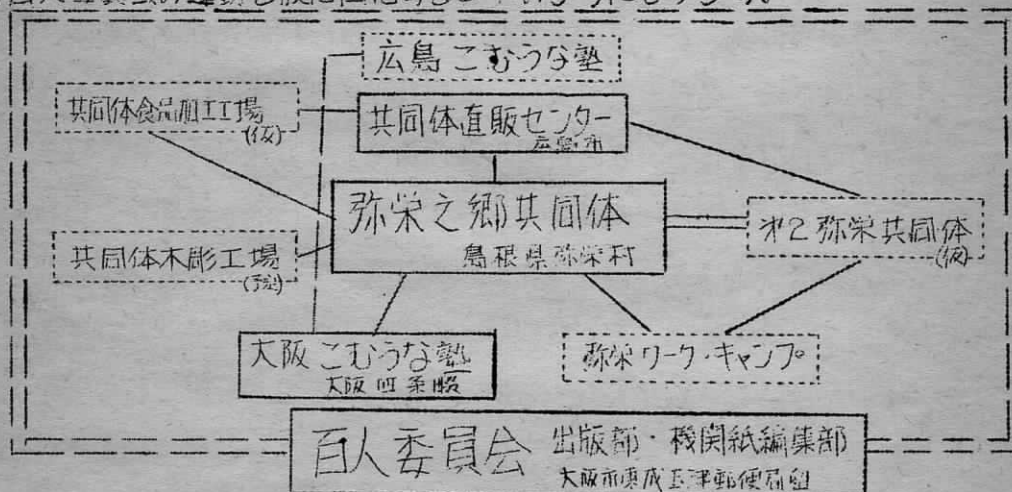
Ⅰ. コムニオン百人委員会出版活動および

コムニオン学校

百人委員会は、委員会の機関紙として月一回の「コムニオン・ヒロバ」(雑誌に準じた題)の発行と、共同体運動に関するさまざまなパンフ類の発行等の出版活動をしています。

「コムニオン・ヒロバ」1部 50円、「現代暴力論」1冊 500円、「さらに深く集団の意を」一ツワル村宣言 50円、「人民公社」1冊 150円、「もう一歩」

現在の百人委員会の運動を仮に図化すると下のようになります。



コムニオン百人委員会運動とは、これら各地での運動の総称で、百人委員会は個々の運動体の連絡・事務機関としてあります。

会主義—スーパ—の社会思想」長谷川進 150

円、「標的を射る—尾関弘共同体対談集」

尾関弘 150円、「土着と生産力の論理—

柳下村塾の思想」茅島洋一 50円

また百人委員会は、共同体研究会や読書会、あるいはコミュニン学校を時々各地で開いて、共同体運動の理論的向上と情宣活動を行っています。

2. 共同体地の社会化運動

百人委員会は、弥栄之郷共同体の土地・建物・機械等のすべてを社会化(だれのものでもないように)するために、カンパ活動を行っています。

共同体が共同体に住む者だけのものではなく、運動にかかわる者全員のものであり、ひいてはだれのものでもなくなるといふ共同体社会のあるべき姿に近づくためにも、この社会化の作業は、共同体運動にとってもっとも基本的で重要な行為です。

カンパの形式には、

①土地のみに関する共同体共有券(1口、2,000円—約30坪単位の共有運動)の販売

②共同体運動全般(コミュニン百人委員会)

に対する定期カンパ(1口、毎月500円)

③弥栄基金—弥栄之郷共同体、オニ弥栄共同体(仮)の農機具・設備・施設の拡充に対するカンパ

があります。

3. 弥栄ワーク・キャンプ

キャンプ活動は、百人委員会の運動のなかでももっとも重要なものの一つです。共同体にとっても、キャンプは共同体が外に開かれる門戸となり、共同体が孤立化するのを避け、真に運動の中の根拠地として存在させようとするものです。

キャンプ活動の目的は次の5点に要約できます。

①未知の友人との無限の可能性を秘めた出会い

②肉体労働(生産労働)感覚の体得

③理想的小社会の醸成—社会的存在としての自己の確立

④知識および技術の共有化

⑤自分自身の解放—小市民的日常性の否定と生活の更新

「弥栄ワーク・キャンプ」は、時々に応じて、弥栄之郷共同体で次のようなキャンプを行います。

- a) 労働力獲得を目的とした 労働キャンプ
- b) 理論学習・討論を目的とした スタディ・キャンプ
- c) 活動の技術訓練・技術獲得を目的とした トレーニング・キャンプ
- d) 高校生や中学生を対照とした 教育キャンプ

4. 共同体直販センター

弥栄之郷共同体で収穫した農作物を広島市内で販売していく運動体として「共同体直販センター」があります。

直販センターは、弥栄之郷共同体の運動を理解し、共同体の農作物を常時食べてくれる家庭を一軒一軒組織し、宅配契約を結び、このような家庭に対し注文の野菜を定期的に（週に2回）配達していきます。

また、それと並行して、新しい宅配家庭の獲得、共同体直販運動の目的を情宣するためには青空市場方式による販売活動も行います。直販活動は最終的には、農作物の商品化をやめ、「生産者保障費」「流通機能費」として消費者が生産者の生活を保障する形を目指しています。

直販センターはこれらの活動を通じて

今までにない質を含んだ地域生協作り、都市コミュニティ作り、消費者運動の展開を目指し、究極的には労働者と農民、都市と農村の強い連合を樹立し、今日の社会にみられる「公害野菜」「搾取された野菜価格」との闘争を展開しようとするものです。

また、「共同体直販ニュース」を定期的に発行し、消費者の問題意識を吸収し、生産者の声との交換の場にしていきます。

5. こむうな塾 — 共同体教育運動

「こむうな塾」という名のへんな塾を広島と大阪で行っています。これは今まで紹介してきた百人委員会の運動と少し異なりますが、「こむうな」というのは、エスパーント語で「共同体」という意味で、共同体的な理想と考え方で、今の点数評価と競争の学校に絞られた子供たちを解放する場を創ろうというものです。共同体に不可欠な教育の問題を、日々子供たちに接する生の関係から考えようとしています。

また、弥栄之郷共同体には住んだりできない都市の人たちの関わり（運動）の場として、集会・研究会にも利用しています。